

矛盾である。これは戦争における国民の犠牲の上に築かれたものであるし、中国・朝鮮という東アジア隣接国に対して植民地的に侵略する行動でもあった、という点においてである。

この間に、わが国の資本主義は発展した。一方で多くの貧困と苦難を生み出した。高度な発展と苦難を生み出した。

た生産をつづけた。社会運動・小作争議は、しばしばの弾圧の中からも、しかも雑草の芽のように伸びようとしていた。その力を背景に

人民大衆の支持の中で展開した。そのもっとも象徴的な現われは、普通選挙法の成立（一九二五年）であるが、同時に治安維持法が成

立したことは、権力の弾圧の強化をも示していた。

一九三〇年（昭和五年）を中心とする前後十年間の大恐慌は、わが国を、さう大きな戦争こそを

いこみ、満州事変（一九三一年）以後太平洋戦争にいたる暗い谷間の十五年戦争の時代となった。この間、日本人民大衆の犠牲と苦闘

いであらう。この上に、戦後の民主化がきた。これが占領と重なっているために、今日、わが国の反動は、この民主化を徹底的に圧殺

してふたたび軍国主義・機軸主義の権力国家をつくるうとしている。それが独占資本にとっての容易な、繁栄の道と考えられているようである。そういう、現状を肯

定しようとするところに「明治百
年祭」が出ているとすれば、その
意図は、徹底的に、追及されねば
ならないだろう。（まつしま・え
い子氏 歴史学者「努力三十一

スヨ

遺族となった松永すみ子さんの決意

が國を、さらに大きな戦争にさそ
いこみ、満州事変（一九三一年）
以後太平洋戦争にいたる暗い谷間
の十五年戦争の時代となった。こ
の間に、日本人民の犠牲と苦闘

—明治百年—その歴史は何を語る—

松島栄一

ようである。そういう、現状を肯定しようとするところに「明治百年祭」が出ているとすれば、その意図は、徹底的に、追及されねばならないだろう。（まつしま・えいいち氏 歴史学者「労働ニース」より）